

Rotary Club of SUGITO



杉戸ロータリークラブ週報

2008～2009年度 RI のテーマ

Make Dreams Real

会長 田中昌夫 幹事 大作 茂

第1938回例会(2008年8月12日)

休会

第1939回例会(2008年8月19日)

点鐘

田中会長

ロータリーソング 君が代、それでこそロータリー

四つのテストの唱和

結婚祝・誕生祝



本日は7月と8月の誕生祝の方々にお花を付けていただき、一緒に写真を撮るつもりでしたが、欠席の方が多く8月の誕生祝の下津谷会員しか出席しておりません。おめでとうございます。

会長挨拶

田中会長



先日の流灯祭には皆様のご協力を頂きたくさんの寄付を集めることが出来ました。有難うございました。

また、8月16日には会長幹事会がありまして、先日春日部RCの会長幹事さんが見

えになった時に話しておりました「タイ王国山岳民族への教育支援活動」の具体的な話がありましたのでご紹介しておきます。子供たちが公平・平等に教育を受けられる環境作りを目的とし、水資源支援事業(井戸掘り)を計画しました。つきましては各クラブの会員の方々のご協力を頂きたく、活動予算案を立ててみましたので検討をしてみてくださいとのことです。

そのためのバザーを10月19日(日)の商工祭で実施予定ですのでこちらの方もご協力をお願いいたしますとのことです。

インターネットではロータリーに関する世界中の情報が見られますのでその中から「世界に橋を渡して」という記事を紹介しします。「エチオピア、青ナイル川にかかるセルバ・ディルディ橋の壊れた中央部分を、一時的に木材で埋める作業が行われている。米国バージニア州のグロウセスターRC、グロウセスター・ポイントRC、フォールス・チャーチRC、およびエチオピアのパヒール・ダールRCの後援によって、ここから150メートル下流に新しい橋が建てられる予定である。」これは2001年「ナショナル・ジオグラフィック」誌をめくっていた米国バージニア州、ニューポート・ニュースRCのケン・フランツ氏が、死の危険を冒してセバラ・ディルディの橋をわたる写真を目にしたことから始まったプロジェクトの結果です。「青ナイル川の壊れた橋は一度に一人ずつしか渡れないため、いつも長蛇の列ができる。壊れた橋の両端に4

例会日： 火曜日 12:30～13:30 例会場： 埼玉りそな銀行杉戸支店 3F

事務所： 杉戸町杉戸 2-12-26 埼玉りそな銀行杉戸支店内

TEL 0480 - 34 - 1716 FAX 0480 - 34 - 1360

人ずつ、合計 8 人の男たちが黄色いロープを渡すのだ。20 分後、バナナ売りの青年は胴体にロープを巻きつけた。注意深く壊れた橋の縁からそっと離れると 15 メートル下の激流の上に数分間ぶら下がった状態で反対側の男たちが少しずつ手繰り寄せるロープに身を任せていた。この日、約 50 人が無事に橋を渡った。ロープから落ちることは確実に死を意味している（実際最近も男性が一人落ちたという）。橋が出来たことで経済も発展し、学校や仕事に通うことも出来るようになりました。フランツ氏は危険な橋を建てかえるプロジェクトをこれからも頑張っ

幹事報告

大作幹事



ロータリー情報委員会より「友」インターネット速報が届いております。

来年の国際大会がイングランドのバーミンガムで開催されますが、スコットランドのセントアンドリュースでのゴルフプレイを希望しておられる方がどのくらいいるかの調査がきております。

委員会報告

広報委員会

田中会長

広報部門セミナーが 8 月 9 日、大宮のラフォーレ清水園で行われ行って来ましたので、報告をいたします。

まず細井部門委員長の挨拶があり、奉仕活動を一般の人に知っていただくことが大変重要なことだと言っておりました。

次に岩淵ガバナーの挨拶がありましたが、R I アンケートで「ロータリーを知っているか？」という質問に対して日本では 33%しか一般に知られていませんでしたというお話がありました。日本の美德は尊重しますが、R I としては

もっと広報を行い、会員増強に努めて下さいとのことでした。

関口研修リーダーは「流灯祭を新聞とテレビで広報いたしました。日本人は広報が下手な民族です。もっと一般の人にロータリーの活動内容を知らしめるべきです。そのためには社会奉仕活動が広報に役立ちます。そして、もっとメディアを有効に使うべきです。」と述べていました。飯野広報部門諮問委員は「私たちがロータリーの広告塔になるべきです。それには社会評価の良いクラブでなければ広報の意味もなく、会員増強にもなりません。事業に置き換えると 10 年程、広報に力を注ぐのが遅かったのではないのでしょうか。広報について真剣に考える時期です。社会の移り変わりに対応し、ロータリーを P R していくべきです。」と述べています。

第 2 本会議では、テレビ埼玉のキャスター西野七海氏の基調講演「地域に伝える～わたしの経験から」があり、その後情報交換、交流会がありました。2770 地区内の報道機関一覧表もいただきましたので、役立てたいと思います。

米山奨学委員会

田中会長

米山記念奨学部門セミナーが 8 月 2 日にラフレさいたまで行われ行って来ましたので、報告を致します。

まず、岩淵ガバナーの挨拶で、米山奨学部門は国外との架け橋となるべく部門です。これからの希望等を奨学生より発表がありますので、是非最後までご協力をお願いしますとのことで始まりました。

関口研修リーダーは、この地区は財団で一位、米山は二位です。今年度も是非ご協力をお願いしたい。米山奨学というのは戦争で迷惑をかけた国々に支援をしている訳ですから、これからの若者たちがお互いの国を理解出来るようになるきっかけとなってくれればと思います。と述べています。

津田部門担当諮問 P G は、世の中が激変する中で今後米山をどのように支援していくかを話されていました。外国人に日本人の取り組みを知っていただく為に、米山を通じて進めています。

米山創立時(40数年前)は大学に入学するのは大変でした。現在大学では、新入学生を集める為にあらゆるサービスを行っています。また、企業も留学生を採用しています。福田総理の挨拶の中でも、奨学生を多く受け入れましようと言われまして、入国等の支援をするそうです。三つの提案としては、生活の中でのコミュニケーション・将来の絆を強化する・卒業後の就職の世話をする・です。そして、学友会組織を拡大すべきですとも話しておられました。

その後、菊池部門委員長より今年度の活動方針についてパワーポイントを使った説明がありました。

休憩をはさんで、36名の奨学生の自己紹介・報告等がありました。

雑誌紹介



金子会員

まず横書きの1
1P~16Pには
8月の「会員増強
および拡大月間」
に因んで「なぜ、

会員が減るのか」というテーマで会員歴10年以下のロータリアンに聞いた記事が載っておりますので抜粋して紹介します。

「有益な意義をもたない」ということで、ロータリーの広報が不足している。新規事業者が入会の機会を得ていないなどの「小さな理由」もあり得ますが、より大きな理由は、ロータリークラブが社会にとって有益な意義を持っていない一面が現れたことではないかと思えます。「何を言っている、ロータリークラブはこんなに社会奉仕や寄付活動をして、社会の役に立っているぞ。お前は勉強が足りん！」というおしかりの言葉を受けるのを承知で申し上げれば、昨今の食品偽装問題などでマスコミに登場した方々の多くが、実はロータリアンであったということが、象徴的だと考えます。

「世代間格差を縮める」ということで、当クラブでは例会や会員相互の親睦に年間予算の多くを費やし、会員同士の活動が中心となってい

る。しかし、ロータリーの理想や活動内容を広く地域社会にディスクローズし、軸足を地域貢献やボランティア活動に移すことによって、多くの方々がロータリークラブを認知するとともに、賛同も得られるように思う。また、年齢や社会的地位の向上と共に、既成概念に固執しがちになる思考を切り替え、茶髪やタメ語(敬語を話せない)など、若者たちの文化や価値観を受け入れられる柔軟性をもつことも、世代間格差を縮めながら今後のロータリークラブを発展させるために、必要な要素だと考えている。

「寄付行為や例会出席に工夫を」ということで、奉仕活動や会費などについては納得していますが、米山やR財団などの寄付行為については、一律ではなく個人差があってもよいのではないのでしょうか。富める者、貧しき者それぞれの器量での寄付、ということではいかがでしょうか。不景気の昨今、会員に負担をかけ過ぎない様な配慮があってもよいかと思えます。出席についても、毎週の例会ですが、それぞれの会社社長や事業所所長が多く、無理をして出席している会員もいるようです。特に40~50歳の働き盛りの会員は、メイクアップすることも大変なようです。月一回の休会ができないでしょうか。ロータリーの精神に反することは承知ですが「不易流行」という言葉どおり、その時代によって変化することも、今日生き延びるためには必要ではないでしょうか。

「現代の企業人は暇がない」ということで、私のクラブの現在の会員数は15人です。10年前は42人でした。これだけ会員が減ると、会員増強に対し自信を失います。そうした負の連鎖が今の会員減少に結びついているのではないのでしょうか。以前であれば多少の不満はあっても、ゴルフ場やリゾートの会員権を取得するのと同じ感覚で、ステータスのある「ロータリークラブの会員になった」という満足感があつたのだと思えますが、そうした虚飾に価値がなくなった現在、全く新しい価値観を構築しなければ成り立たないと考えます。社会奉仕事業なども、各クラブが大変立派な活動をしています。個人個人の負担は以前より増えているように思い

ます。現役の企業人であれば、今の時代は必死で企業を支えているときです。現代の企業人は、暇がないのです。企業家が多いのですから、企業の繁栄に結びつく特典を用意し、拘束時間を減らし、見えないところで使われる負担金をもう少し見るとことで使い、社会にアピールできる共同テーマで活動し、広報することが必要と考えます。

同じく横の41P～48Pにはロータリーの基礎知識（日本編）が載っておりますので是非読んでみて下さい。

次に縦書きの16P「言いたい・聞きたい」コーナーでは「ロータリー家族とは？」ということで札幌の方が投稿しておりますのでご紹介します。「ロータリー関係者はみんな一つの家族のように親しく、近いものである、とするのが『ロータリー家族』の理念である。私どものクラブ会員夫人が、がんになった。かなり進行した状態のようで、その会員は非常に心配し、がんの看病などのため例会出席もままならなくなった。理事会の特別裁量もあって例会欠席は認められ、本人も胸をなでおろした。夫人も治療が奏功し病状も回復、いまは経過観察中のところである。私はがんの専門医という職業柄もあり、早くから相談を受けていた。それから数ヶ月たち、気になって「ご夫人の病状はどうですか？もし、落ち着かれたら例会にも出てみませんか」と、やんわりお尋ねしてみた。ところがその会員は「クラブからも時々電話をいただき、必要な連絡も受けています。でも、たまの例会に出ても、奥さんはどうですか？と声をかけられたことがありません。妻の病気は欠席理由として理事会に知らせてありますから、大方ご存知のはずなのですが、何かクラブから忘れられたような、とても寂しい気持ちになります」。さらに「ロータリー家族といいますが、なかなか理想や理念通りにはいきませんね」と言われる。これを聞いて、私もショックだった。私は「われわれ日本人はシャイですからね。それと、がんという病気をまだタブー視しているから、声をかけにくかったにかもしれませんね」と皆の立場を代弁してみたものの、落ち込んでいる彼

の辛い気持ちを癒すのに十分な言葉が見つからなかった。がんはどこにでもある身近な病気になった。がんの問題も避けることなく、素直に相手の心に入っていき慈愛の心が必要なのだと思う。そして、その心を素直に表現し、優しい一言を相手にはっきり言ってあげるのが真の「ロータリー家族」であろう。

出席報告

篠原会員

出席免除 2名

月日	会員数	出席	欠席	MU	出席率
8/19	29	16	13	5	75%

スマイル報告

篠原会員

田中会長・・・結婚・誕生祝いおめでとうございます。

中島会員・・・暑い日が続きます。健康に注意して下さい。

宮田会員・・・急な用事が出来まして早退します。結婚・誕生祝いおめでとうございます。

下津谷会員・・・田中会長、昨年に引き続き、地区セミナーにご精勤、暑い中ご苦労様です。

関口会員・・・杉戸古利根流灯祭をギネスブックに登録すべく努力致します。今月初めての例会なのですね。休みつけると出るのが面倒になります！

以下同文・・・大作幹事、渡辺洋子会員、鈴木会員、渡辺良一会員、篠原会員、細井会員、仁部会員、金子会員、舟越会員、武井会員、渡辺孝会員

本日投入額	20,000円
累計額	162,000円